



群馬県

Vol.45 (2020年3月)

地球温暖化防止活動推進員ニュース

群馬県地球温暖化防止活動推進員全体研修会

日時：12月13日（金）10：00～12：00

場所：群馬産業技術センター多目的ホール

基調講演「地域循環共生圏と地域における温暖化防止活動」
環境省環境計画課地域循環共生圏推進室 中島恵理室長

活動紹介「藤工環境活動プロジェクトと循環型社会づくり」
藤岡工業高校 富岡賢洋教諭



中島恵理室長

基調講演で中島室長は、自宅は長野で家族が有機農業、勤務は東京の環境省と二地域居住での自身の生活スタイルから「地域循環共生圏と地域における温暖化防止活動」を紹介して下さいました。地域の特性を把握し、それを踏まえた施策や取組を行うことが効果的であると感じました。

活動紹介では富岡教諭が教室から出るゴミの分別、廃油の回収、廃棄物処理の見学や授業で出る廃電線をリサイクル施設に持ち込みボランティア活動として作業に協力するなど、学びの場で生徒の実践を養うプロジェクトを紹介して下さいました。これらの「藤工環境活動プロジェクト」が今年度の3R推進功労者等表彰で内閣総理大臣賞に選ばれました。

第4回クールチョイスぐんまフォーラム

日時：12月13日（金）13：30～16：30

場所：群馬産業技術センター多目的ホール

◆基調講演

「免許返納後も快適に移動できる社会を目指して」

高崎経済大学 小熊仁准教授

◆話題提供1

「エコ通勤のメリットと先進的な取組事例」

国土交通省関東運輸局環境・物流課 諏訪幸夫課長

◆話題提供2

「群馬県におけるエコ通勤への取組」

群馬県県土整備部交通政策課 松岡利一課長

◆シンポジウム

「スマートムーブの輪を広げるために」

2015年からの生活交通をつくる会 佐羽宏之会長

桐生市市民生活部環境課 高橋真之主宰

64名が参加したフォーラムでは、まず小熊准教授から免許返納後も快適に移動できる社会づくりには、車利用を前提とした郊外型のまちづくりを転換し、公共交通とまちづくりを一体化させる方向で進めるべきであることが提唱されました。

関東運輸局の諏訪課長からは、エコ通勤のメリットやエコ通勤優良事業所認証制度、行政や民間企業におけるエコ通勤の事例などが紹介されました。



群馬県交通政策課の松岡課長からは、マイカー王国群馬において、自動車以外の移動手段も選択できる社会を目指す交通まちづくり戦略が紹介されました。

佐羽会長からは、個人の努力も大事だが、社会全体のデザイン変更が必要であるとの指摘がありました。

桐生市の高橋主事からは、全国739のエコ通勤優良認証事業所の中で、県内唯一の認証を得ている桐生市役所のエコ通勤の取組が紹介されました。

会場からの発言として、みどり市、渋川市及び東京ガスの取組も紹介され、スマートムーブの素地が広がりつつあると感じました。

「ごったくまつり・ボランティアフェスタぬまた」開催

令和元年12月1日(日)利根沼田地域で活動している様々な環境団体やボランティア団体などが参加し開催されました。

ネーミングの「ごったく」ですが、利根沼田地方の方言で、「ごちゃまぜ」とか「ごちゃごちゃ」といったような意味があります。

おまつりのステージで、吹奏楽やバンド演奏、ダンスなどで華やかに幕を開け、クリスマスツリーや廃食油によるキャンドルづくりや、スタンプラリーもあって、まさに何でもありのイベントです。

もったいないバザーでは、衣類をはじめ生活雑貨、食器などを販売。また、来場者から家庭で余っている食品をお持ちいただき『沼田市フードバンク』へお届けしました。

『発電体験コーナー』では、「風力発電機」「水力発電機」「手回し発電機」により、子どもたちが発電にチャレンジし、電気の大切さを学んでおりました。

推進員ブースでは、手作りのパネル「地球温暖化の仕組みとその影響」「SDGsとは？」を掲出しました。立ち寄っていただいた来場者は、特に気候変動に関心を持たれていました。また、「SDGs」については、「聞いたことがない」「目的や内容がよくわからない」などSDGs認知度の低いことを認識しましたので、認知度向上に向けた啓発活動を推進してまいりたいと思います。(沼田市・角田和男推進員)



もったいないバザー

西部森林環境事務所「先進施設視察研修」



群桐エコロ(株)視察



令和元年12月2日(月)地球温暖化対策西部地域協議会(会長：曲沢修西部森林環境事務所長)は、参加者14名により先進施設視察研修を行いました。

午前に見学した群桐エコロ(株)(太田市新田大町)は、焼却処分を行う産業廃棄物の中間処理施設です。今回は特に有害なPCB廃棄物について、1300度の高温になる焼却炉で無害化する行程を見学させていただきました。普段目とすることができないPCB廃棄物の処理施設を見学することができ、参加者の皆さんはたいへん感激されていました。午後のAGF関東(株)尾島工場(太田市世良田町)は、味の素AGF(株)の関連会社で、ブレンド珈琲を製造しています。包装容器のコンパクト化やコジェネレーションへの取組など環境保全に配慮した活動を展開しています。インスタント珈琲の製造ラインを見学させていただきました。

(西部森林環境事務所・松下学補佐)

STAGE EARTH ～僕らは地球で生きている～in前橋

世界で起きている異常気象を自分事として受け止め、生活や行動を変えていくことを親子で考えるイベントが2月15日(土)前橋市芸術文化れんが蔵で行われました。

キッチンカーによる食品、小物やアクセサリーの販売など、おしゃれな雰囲気のイベントでの講演でした。

午前中にセンター出前講座として、「食品ロスの問題について」をテーマに、遠藤昌男推進員がメーカーや物流などの段階でフードロスが大量に出ている現状と、それらを全国に届ける仕組みについて講演しました。

「キッチンのエコについて」では、地球環境とキッチン(食品の生産から買い物、ゴミの排出など)の関係について梅山さやか推進員が説明し、旬の野菜を美味しく使い切るポイントや冷蔵庫を効率よく使うテクニックを紹介しました。来場者のみなさんにとって、“地球と環境”について考えるイベントになりました。

(前橋市・梅山さやか推進員)



遠藤昌男推進員



梅山さやか推進員

2050年に向け群馬県は「ぐんま5つのゼロ」を宣言します!!

令和元年12月25日に、群馬県は2050年に向けた「ぐんま5つのゼロ」を宣言しました(2050(ニーマルゴーゼロ)宣言)。この宣言は、気候変動の影響による自然災害や、海洋プラスチック問題、食品ロス問題等に関する課題を2050年までに解決し、持続可能な社会を構築することを宣言したものです。群馬県は、この宣言を実現するため、様々な取組を進めて参ります。また、そのためには、推進員の皆様の日々の取組や啓発活動等のご協力も必要不可欠です。今後とも更なるご協力を是非よろしくお願いいたします。



令和元年12月25日 山本知事が小泉環境大臣に「ぐんま5つのゼロ宣言」を表明しました。

宣言1 自然災害による死者「ゼロ」

県土の強靱化とともに、県民の防災意識を高め、自然災害による死者をゼロにする。

- 【主な取組】・「災害に強い県土づくり」に向け、ソフト・ハードの両面から取組を徹底
・県民の「自らの命は自らが守る」という防災意識の徹底 など

宣言2 温室効果ガス排出量「ゼロ」

日照時間の長さや豊富な水資源・森林資源など本県の恵まれた再生可能エネルギー資源を最大限に活用して温室効果ガスの排出実質ゼロにする。

- 【主な取組】・「ぐんま再生可能エネルギープロジェクト」の推進
・省エネ・節電対策のさらなる推進 など

宣言3 災害時の停電「ゼロ」

エネルギーの自立・分散化(地産地消)により、災害時にも電気供給を継続する。
さらに、地域外への富(電気代)の流出をなくし、地域内で資金循環させる。

- 【主な取組】・「ぐんま再生可能エネルギープロジェクトの推進」 など

宣言4 プラスチックごみ「ゼロ」

環境中に排出されるプラスチックごみをなくす。

- 【主な取組】・プラスチックのライフサイクル全体を通じた資源循環の構築
・ワンウェイプラスチックの使用削減、代替素材への転換促進 など

宣言5 食品ロス「ゼロ」

「MOTTAINAI(もったいない)の心で食品ロスをなくす。

- 【主な取組】・食品ロス削減「MOTTAINAI運動」の展開
・食品製造業や流通小売業等の食品ロスゼロの推進
・フードバンク活動や子ども食堂の支援 など

「活動報告書」提出のお願い

令和元年6月21日の委嘱状交付式から、地球温暖化防止活動推進員の皆様には、地域やご家庭での温暖化防止活動の実践、イベントや出前講座へのご協力など、大変お世話になりました。

県では、皆様の1年間の活動を把握させていただくため、活動報告書の提出をお願いしております。皆様に活動報告書提出の依頼を送付(郵送またはメール)させていただきますので、ご確認いただき、ご記入・ご提出をお願いいたします。ご提出は、郵送または電子申請でお願いいたします。電子申請の利用方法は、提出依頼の文書に同封(同送)させていただきます。提出期限は3月下旬の予定です。お忙しい中、お手数おかけしますが、よろしくお願いいたします。

(環境政策課)

太田市立太田高校「COOL CHOICE」普及活動

太田市立太田高校の商業科の生徒3名が「課題研究」の授業を通して商店や学生に対して「COOL CHOICE」の普及活動を行いました。生徒さんから近隣の商店や飲食店に普及活動を行いたいのでアドバイスを欲しいとの連絡があり、関連する資料と宣言書を準備して学校に出向き説明しました。

夏休み期間中に学校近隣の商店や飲食店をまわりCOOL CHOICEを知ってもらうための活動を行い、活動成果をまとめて11月に開催された太田市の環境フェアでオリジナルの動画や環境クイズ、クールチョイスの宣言の募集を行いました。今まで発表の経験が無かったので事前に太田市生品小学校の土曜スクールで児童への教育を兼ねて発表の練習を行い万全な体制で臨み関係者からも若い人が活動するのは素晴らしいとの評価を頂きました。

環境フェア後には校内でも普及活動を行い合計420名にCOOL CHOICE宣言をしてもらいセンターに提出しました。若い人が関心を持ち活動してもらえるようにこれからもサポートしたいと思います。
(太田市・西村豊推進員)



生品小学校土曜スクールの様子

第3回連携会議



群馬県バス協会野口常務

2月12日(水)今年度最後の連携会議が行われました。構成員全員が出席し、各地区の活動報告と来年度に向けた活動計画などが紹介されました。各地区とも活発な活動が行われ、そこでの気づきを来年度事業に活かそうという内容でした。センター事業の進捗報告に続いて、群馬県バス協会野口常務から貨客混載、自動運転バス実験、交通系ICカード導入など、県内バス事業者の取組について紹介いただき、意見交換を行いました。

バス停の移動やフリー乗降など、利用者を増やすための規制緩和についての意見もあり、今後も協議していくこととしました。

SDGs 公開セミナー

2月4日(火)群馬県公社ビル1階ホールにてSDGs公開セミナーが開催されました。

SDGsへの関心の高まりを反映して、170名の参加者が講演とパネルディスカッションに耳を傾けました。

ブリヂストンの稲継さんからは、本業を通じたSDGsへの貢献事例が紹介されました。来ハトメ工業の石原さんからは、「私のSDGs」として社員各自が意識するような仕組みが紹介されました。

ミツバ環境ソリューションの神部さんは、女性が当たり前前に活躍できる職場や社会づくりの意義を強く訴えました。パネルディスカッションでは、高崎商科大学熊倉特任教授のコーディネートで、オール群馬のSDGs県民運動とするためにパートナーシップを強化することの重要性が確認されました。

編集・発行

群馬県地球温暖化防止活動推進センター(えこサポ)
〒371-0854
前橋市大渡町1-10-7 群馬県公社総合ビル6階
TEL: 027-289-5944 FAX: 027-289-5945
MAIL: suishin@gccca.jp

えこサポから
のお知らせ

イベント情報

アースデイin桐生

【場所】 群馬大学桐生キャンパス構内
【日時】 4月12日(日)
【時間】 10:00~15:00
【内容】 産官学民で協力して行う環境教育のイベント

編集後記

45号推進員ニュースの掲載記事にご協力頂いた皆様ありがとうございました。

次号も推進員さんの活動報告をたくさん紹介していきたいと思いますので情報お待ちしています。



群馬県環境政策課

〒371-8570
前橋市大手町1-1-1
TEL: 027-226-2817 FAX: 027-223-0154
MAIL: kanseisaku@pref.gunma.lg.jp